

藤崎いきいきまちづくり協議会 第4回会議 町長へのプレゼンテーション 口頭発言の要旨（「事業提案報告書」に掲載された以外の内容）

■ まちづくり部会

○ みんなが集う駅づくり事業（文化施設のコラボ展示会）

北常盤駅の周辺には文化施設がたくさんあります。まずは、「ふるさと資料館あすか」です。県内には他にこのような立派な施設はないと考えます。それから、「年縄伝承館」、「コミュニティプラザぼっぼら」とある訳ですから、それらを連携しながら「展示会」とか「見学会」を行って、お客を誘致することが良いと思っています。

○ みんなが集う駅づくり事業（事業主体について）

これまでは、商工会が駅でイベントをやったりしていましたが、我々から見ると単独でやっているようで、これでは活性化の効果がないと思います。町全体となって、様々な主体が参加することで効果が期待できるため、実行委員会形式の開催が良いと考えます。

■ 産業部会

○ 藤崎町総合農産物直売所施設「藤崎アグロプラザ」（インデネーノ）

これからの高齢化社会において農業を継続していくために、農家の所得を増やす工夫をしなければなりません。その際には、これまでのように市場価格に任せるだけでなく、農家が自ら販売価格を設定できる仕組みが必要です。例えば、水耕のネギは市場に出すと70円です。それがスーパーまで来ると、中間マージンがかかって150円になります。それを直売所に出すと100円で売れる。そうすれば、農家は今までより30円の得をするし、消費者は50円の得をする訳です。直売所とはそういう施設ですので、これに本腰を入れて取り組んでいただきたいということです。

直売所もこれまでと同じようなものをなぞって、それで良いという訳ではなく、他とは違う差別化された直売所が必要です。

町には給食センターができましたが、これを支えるためにも問題があります。規格に合わない食材は使えないということです。これを解決するために、事前に農産物を加工することのできる加工場が必要になります。加工した野菜は、給食センターに提供する他にも、老健施設に提供したり、プレカットの食材として販売したりと多様な取り扱いの仕方が考えられます。

野菜スイーツに関しては、今は野菜を粉にする良い機械があります。これによって、野菜のそば、パン、ケーキ、ソフトクリームなどいろんなものをつくれるようになります。この機械を入れているのは鱈ヶ沢町ですので、見に行ってください。加工センターも三沢市に良い施設ができていますので、見に行ってください。

「サンフェスタいしかわ」のように、直売所に加工場を付随することによって、つくったものをすぐに売ることができます。こうした体制の評判が良いので人気が出てお客が来るようになります。

レストラン施設について、福岡市に有名な屋台村がありますが、ああいう感じで簡単な屋台村もできたら盛り上がるのではないかと考えます。

これから農業の発展を図るには農家を育成指導しなければなりません。支援に関しては、「タキイ種苗」などの種苗会社と提携することで、ブランド力の取り込みを図るよう提案します。それによって、通年販売できる野菜のシステムをつくることもできます。直売所向きの野菜を選択してつくることもできます。給食にどんな野菜が向いているのかという情報もとることができます。それらをつくるための指導を受けることもできます。さらに、タキイのものというブランドもついてきます。栽培指導を密にするためには、指導員をおいてGPSを使って畑にすぐに出かけて行って教えるようなシステムをつくりたいです。ネットでの販売をしますが、東京を初めとした首都圏が対象です。そこに住んでいる藤崎出身者が郷土を応援して購入してくれます。

この施設の通称として「インデネーノ」と付けましたが、これは「何でもやってみればいんでねーの」という挑戦者の精神を表しています。

■ 生活環境部会

○ 公共環境整備

藤崎町は、北常盤駅に降りると、「有機の里」という看板が見えます。有機の里が何かと考えると、昔のように化学肥料を使わなかった時代は、どこにもドジョウやフナやメダカなどの生き物がいたものです。今やメダカなどは絶滅危惧種になっているほど、数が少なくなっています。そこで、そういうみでも我々の周りの環境を見直さなければなりません。藤崎町には大きいもの、小さいもの、普通の農業用水まで含めて川がたくさんあります。その中で、ともかくも「水辺の学習広場」の再生が必要です。先日も見てきましたが、ひどい荒れ方です。鳥の観察エリアの中でも、実際に鳥を見ることができ場所は、少しだけになっています。そういう形ではいけないし、そういうところをもう一回見直してもらったらどうかと思います。特に、一時平川の船着き場を活用してボート下りをやっていたが、そういうふうにも子どもたちを含めて環境に親しんで大事にするということが、すごく大切だと思っています。

公園の整備については、国道を通ると「唐糸御前公園、白鳥飛来地」というでっかい看板があります。実際に唐糸御前、これは「歴史あるところだなあ」というように、やはり駅を降りたら看板があるとか、そういうことが必要ではないかと。藤崎駅は無人駅ですから、少なくとも降りたら、タクシーにすぐ電話して呼べるような案内板があるとか、何も駅舎を立派にするとかではなくて、そういう配慮が必要ではないかと思っています。実は、唐糸御前も見えてきました。今まで歴代に、藤の木を植えてもらったり、山桜を植えてもらったり、いっぱいありました。でも、やはり整備が行き届かないというか、山桜なんかも見ても無惨な状態です。ですから、「お互いもっと公園を大事にしよう」というようなことが大事なのではないでしょうか。整備というのは、必ずしも金をかけるというのではなくて、やはり地域住民が

汗を流してたまにはボランティアをすとか、そういう音頭取りをやる人が大事だということです。

児童公園もいろいろありますが、やはり犬を散歩させたりしています。小さい犬は良いとしても、大きい犬を平然と公園の中を散歩させている人もおります。本当は看板などない方が良いでしょう。犬を入れないというマナーを守ってもらえるのであれば。そういう町でありたいですが、一応最低限のマナー禁止事項が必要ではないかなということ、町として全体的に考えてもらえれば良いと思います。

子どもの森公園は、先般町のおかげでかなりの整備がされたところです。園内には池がありまして、がまの穂や葦が生えています。ただ、その池の水の循環度が少なく、もう少し配慮が必要だと思っております。

役割分担は、行政と町内会等がタッグを組んで取り組むのが最善だと考えています。

○ 雪対策

雪対策については、とにかく雪捨て場の確保が必要です。町の公共用地の他に、藤崎町には個人の空き地がかなりあります。そこを是非、協定というかそういったもので利用できるようお願いしたいところです。

融雪溝は、設置されているところと、無いところではサービスにかなりの格差があるというのが現実です。大きなお金がかかることですから、無いところには、少なくとも何年後、10年後、15年後というようになるかも知れませんが、なるべく住民に理解されるようにして欲しいということです。

■福祉部会

○ デマンドタクシー事業

藤崎町に走っている公共交通、いわゆる青ナンバーの有償運送は、弘前から青森、五所川原へ行く通過的な部分のものはあります。しかし、現実的にはそれ以外にはありません。あとは、皆さんが困るといけないということで、町が独自に行っているものとして、巡回バスがあります。これは、午前中1便と、午後の1便が動いています。それから、温泉を中心に行っている福祉バスは、社協が運行していると思いますが、これは地域的には2日くらいずつになるのでしょうか。あとは、ときわ会病院が藤崎診療所を含めて、各地区にバスを出しているところです。これらが、現状で公共的な部分を果たしております。

ただ、これらの便数では、出たいときに出るとか、用事を足したいときに出るとかという便利さはない訳です。ですから、乗るときは結構乗るかもしれないが、乗らないときは全く乗らないという状況だと思います。これのいい例が、浪岡のコミュニティバスです。同じ路線に路線バスも走っていて、料金も違っています。コミュニティの方には、安くてもほとんど誰も乗っていません。浪岡病院を中心に3路線走っていて、膨大な何千万円の額をかけてやっていますけれども、たぶんあのまま失敗事業として終わると思います。藤崎の場合には、縦横大体10kmです。それで、地域的に見ると、大体3~4カ所

に分けられるのではないかと思います。そういうふうな部分をデマンド、デマンドというのは「予約」という意味ですが、予約をして使ってもらおうということです。普通のバスは、黙っていれば時間にくるといふものです。その代わり、誰も乗らないバスが5本も6本も走るようになります。誰も乗らないから、今度は便数が減らされます。町が金を出さないからといって、また減らされる訳です。そういうふうに段々便数が減って行って、最終的には町が費用対効果で判断するわけですが、路線バスの運行そのものが無くなっていく訳です。そうなれば、今度は町がバスを買って、運転手を用立てても公共の役割を果たすということになってきます。現実的には、これに結構な金がかかると思います。

これをきちっとやっているのは、今は大鰐町でやっています。1日3便の往復で計6便が走っていましたが、今は8便往復の16便が走っています。高齢者が大体2,000~3,000人くらい乗っていたのですが、今は13,000人乗っています。バスでやったときは3,000人、今デマンドのタクシーでやると13,000人と、非常に効果が高いということです。ですから、こうした地域割りをしていただいて、デマンドタクシーないしデマンドバスを是非事業化していただきたいという提案をさせていただきました。

ただ、難点がありまして、これをやろうとすれば全てが法律でがんじがらめです。これを進めるとなれば、まずは町が公共交通協議会というものをつくることになります。ここで認められて、はじめて可能になる制度です。なおかつ、これにはかなり難しい審査も通らなければならないです。これが、町及び委員会が必要性を認めたときに、これをやりましょうという絶対条件があります。ですから、町の皆さんがその気になって、町長がその気になれば、これが可能になるということです。

この良い点は、運行目的の関係です。今の法律でいけば、例えばスクールバスに高齢者を乗せることができません。目的が違うからです。しかし、デマンドであれば、全部一緒に乗せることができます。ですから、今の予算を全部つぎ込むというまですらなくとも、とりあえず半分を使ってやってみるというようにすれば、各地区に5便の往復をさせるくらいは最低限させることができます。そうすると、ある程度の用事が足せる状況が可能になります。

なおかつ、今は買い物難民ということが問題になっています。青森県で約12万人いるということです。これについても、解消することができるのではないかと思います。今、買い物に行きたいときに行けない、さらに重いものを持つことができないという人が、段々増えている訳です。そういうことでいくと、その経路もスーパーであったり、病院であったりといったところを網羅しながら、地域を区切って常盤線なら常盤線といった形で、便数を確保していくことが必要になります。そうすると、高齢者も子どもも対象にしながら、きちんとした運用の形ができてきます。なおかつ、小学校の統廃合の話がいろいろなところで行われていますけれども、統廃合をやる場合には足がないとできない訳です。親御さんが全部送っていくという訳にもいきませんので。そういう部分も含めて、学校に合わせる時間、高齢者に合わせる時間というように、町民の声を聞きながらつくっていくならば、デマンドタクシーが非常に有効に地域のお役に立てるといふことになると思います。それにプラスして、今度は介護の予備者とか、若干体具合が悪い人とかでも乗れるような、そういう装置も今はありますので、そういった人たちにも外に出るチャンスを多く与えてあげましょうということもあります。これによって、藤崎にある温泉の利用者も随分拍車がかかるといふ思いますし、また町の商店にも行くチャンスが増えてくるものと思います。

ただ、先ほど申しましたように、いろいろと法的にクリアすべき点がありますので、非常に時間がかかります。大鰐では、計画をつくるだけに2年かかりました。これをやって実際に運行するという部分と、順次計画を組んでいくという部分と今は二重でやっております。今現在も進んでおまして、今年の10月からは、これまでのバス路線3便も全部デマンドタクシーで運行するということになっていき

ます。是非、藤崎町でも各地域にこれを網羅できるような形で、デマンドタクシーがバスの代わりに住民の足になるということになると、足に困る人たちが少なくなると思っています。

これには、介護の事業者がいろいろ関わってきます。要介護者は、最初は施設の入退所などしか介護事業の足は使えなかったのですけれども、今は規制緩和で病院に行くのも、買い物に行くのも使えるようになりました。これを使うには、勿論介護の認定を受ける必要がある訳ですが、それゆえに高齢者が介護認定をもらうために一所懸命になっているという話も結構聞こえます。そうではなくて、ここでは「いきいきまちづくり」ということですので、高齢者にはいきいきと暮らしてもらう、そのためには無理して介護認定をもらうのではなくて、こういったものに元気に乗っていただくという形で使ってもらえれば良いという願いを込めて、事業提案をさせていただきました。

■ 教育文化部会

○ 町民のコミュニケーション促進プロジェクト（目的・主旨等）

教育文化部会では、学校教育ではなくて、「人づくり」ということで教育を考えました。「かだつて かで 町を 人をつくりだす」という観点で、町民の交流を促す過程で、町のことを真剣に考える人づくりを進めていこうというプロジェクトです。

部会では、いろいろな案がでましたが、最終的にはこのようにまとめました。これによって、藤崎町は面白いことをやっているなということを発信していきたいと思います。とにかく、若い人の参加が必要ですので、そこを重視して欲しいと考えます。

○ 町民のコミュニケーション促進プロジェクト（フェイスブックミーティング）

フェイスブックミーティングは、インターネット上で主に若い人をターゲットに開設するものです。若い人の中には、職場が青森や弘前にあったりして、藤崎にはただ住んでいるだけという人も結構いると思います。大事なのは、実際に皆で顔を合わせて話し合うことなのですが、そうした人たちは毎日遅く帰ってきますし、こういう集まりになかなか参加することがない人たちです。ですから、まずはきっかけづくりとして、インターネットから入っていくことが若者には受け入れやすいのではないかと思います。フェイスブックというのは、ネット上でも実名でやりとりができる場です。そこで決まったテーマについて意見交換をします。そのために、フェイスブックの操作の講習会を開いてもらいます。あとは、公共施設に誰でも使うことができる端末を設置できれば良いと思います。

役割としては、町にはポスターによる呼びかけなどの告知を頑張ってもらいたいと思います。一方、町民の参加は自由です。とはいっても、「さあやりますよ」といっても誰も参加しないと思います。大事なのはきっかけです。そこは、町長に頑張ってもらいたいと思います。ニュースなどに出て、「藤崎町はすごいことを始めるよ」という宣伝をしてもらえれば、若い人が興味を示してくれるのではないかと思います。上手くいっている町というのは、どこでも町長が全面に出て引っ張っています。弘前市長や青森県知事などもそうだと思います。ですから、藤崎も町長に是非PRをお願いしたいと思います。

あとは、操作の分からない人に教えるための講習会を開く必要があるし、町としてしっかりとしたものを作るのであれば、システムの構築をプロに頼むことになると思うので、そのための費用も必要です。

○ 町民のコミュニケーション促進プロジェクト（タウンミーティング）

一方でタウンミーティングは、町に住む人が実際に顔を合わせて話し合いをするための集まりです。年間10回ないし、2ヶ月に1回でも、町内の公共施設や集会所を回って開催するのが良と考えます。話し合いのテーマは、フェイスブックミーティングと同じものとし、勿論フェイスブックミーティングで話し合われた内容は、タウンミーティングで報告することとします。反対に、タウンミーティングでの話し合いの中身は、フェイスブックミーティングに報告します。そのように互いにリンクして、ひとつのものを積み上げていきます。

役割は、会場費用が安くなると思うので、町が主催してもらえば良いと思います。町民の参加は自由で、町長にはできるだけ顔を出してもらいます。費用としては、会場費の他、告知ポスターの作成費、できれば見識のある人に講師をしていただきたいのでその費用、あとは会場でのお茶代などが考えられます。